

# 「人形師」研究の斷片

人形芝居にあつて、太夫三味線人形遣ひの三業が、三輪車の一輪の如く、その何れを缺いても、人形芝居は成立しない事は度々説いたところです。が、今一つ見逃がしてはならぬものは人形師である、人形細工人であるが、人形遣ひの事蹟、藝歴も殆んど判らないのですから、人形師などは、今日何とも實は判りようがないのです。僅かに古今の番付の人形割の終りに「人形細工」なる項目に示してあるのが人形師だらうと、一應は考へられるが、古いところを見ると、これが必ずしも「人形師」とのみ斷じられないやうです。

例へば古いところの番付を見ると

座本 石井飛驒掾

細工方 伊藤出羽掾

と、紋下に坐つてゐます。この細工方は、機巧かたくりの細工方でなく、官廳に對する居方かたのために名義は細工方となつてゐますが、座本の一人である。即ち石井飛驒掾も、伊藤出羽掾も座本なのですが、二人の座

本は協ひませんから、伊藤出羽の方が細工方といふ名義になつて、ソノ興行の半ばの権利——座本としての——を獲てゐると解する方が當つてゐませう。即ちこの種の道頓堀における機巧は、石井、伊藤、竹田(近江)と三座あつて、時として合同するに當つて、一人は細工方といふ事でその筋への届出その他がなつてゐるのです。

又時とすると、座本といはないで、

#### 細工人竹田近江大掾

と書いてあるのもあります。されば座本、細工方、細工人は何れも機巧の「座本」の意を示してゐますから、細工方とあつても「人形師」とは斷ぜられません。

ところで、人形の頭を實際に打つた操の方の人形師は、番付面にある「人形細工」なる項目について考察しますと、これとても何とも今判断のつかぬ事になります。

古い竹豊兩座の番付を調べてみますと「人形師」或は「人形細工」の一欄がありません。そして「頭取」なる項目があります。この「頭取」の下には人形遣が二人乃至三人の名前を現はしてゐます。これを注意して見て行くと、明和三年戊正月十四日の竹本座の番付に、初めて、人形遣でない市野谷九十郎といふのが、頭取となつてゐる。そして竹田冠藏といふ人形遣と兩人名前を並べてをります。

この「市野谷九十郎」が、「一の谷九十郎」になつたり、「市ノ谷九十郎」になつたり、書き方は、いろいろですが、要するに明和の「市野谷九十郎」は一人であるらしく思はれます。

この「一の谷」を名乗る人が、人形遣ひでないとすると、人形部屋の事務を司る人かとも考へて、尙年代を追うて調べて行くと、文化十四年の丑三月二日の稻荷社内の芝居で

人形細工人 一の谷九十郎

と明かになつてゐます。そして文化、文政度に殆んどが「一の谷九十郎」或は「一の谷富三郎」などがあります。これが天保度以降になると、

人形細工人 和泉屋五郎兵衛

一の谷八十郎

竹田 亀之助

大江 万 藏

大江 万次郎

大江 幸三郎

小林 金 三

などが現はれてきます。これによつてみると、前掲の明和三年正月竹本座の人形頭取の市野谷九十郎といふのが、人形師乃至細工人として、番付面に記載を見た最初の人ではありますまいか。そして初めは「頭取」の名によつて人形の細工をしてゐたと、私は解釋するのです。そして「人形細工人」と番付面で名乗つた初めは恐らく「一の谷九十郎」ではありますまいか。——とまづほど斷定しておきたい。尙異つた番付が見付かりましたらば、勿論訂正しますが、今日まで、私が見た番付では、上述の結果を見るのです。

而してつゞいて、明治元年前後からは大江定丸、大江文丸などの名が見えて、近年の文樂座は「天狗辨」の名を載せてゐますが、事實天狗辨は、もう物故し次の天狗辨は淡路の故山へ歸つてしまひました。今日の文樂座は、人形の頭の新製作の要がありません。假令御靈の文樂座の焼失を見たとしても、世間に散ばつてゐた頭を蒐集し、修繕してやつてゐるのです。で、今日人形の頭の製作はこの淡路に残つてゐる天狗辨か、阿波にゐる天狗辨の師匠である天狗久といふ老齡の人形師しかゐない。そして共に高齡の人ですから、人形淨瑠璃の頭の製作も、傳統的の人はこの淡路と阿波との老人が、最後の人ののでせう。

かう一應は説明しましたが「人形師」の説明は申足りませんから、人形遣の仲間傳はる彼等の業態